ひまわりばたけ

ひまわり書店 みやこ町豊津 326-1 TEL 0930 - 33 - 8080

> は暑さの中に涼しさ 球の上に暮らす人間

を、寒さの中に温

従っていますのに、地

自然は地球の運行に



も咲いています。天然 岸花も赤ばかりではなく白や黄色

ロギそれに名を知らない虫の音が 法師ゼミが、夜になると松虫やコオ そこいら中から聞こえてきます。彼 を迎えます。 木々に囲まれた瓢鰻亭の昼間は 毎日30度を超える暑さの中十月

前田 賤

です。お遊び方々お出で下さい。

ることにしました。毎月第三日曜日

楽しい時間となりました。 「そうそう、そこが面白かった」「あ

会再開三度目の九月例会は教員経

教科書に載っていた絵本といえば…

でもってそれを得よ

はなく自然を壊す力 然の力を借りるので さを求め、それも自

うとしているのです。

- ▼ランダムに取り上げてみました。ほかにどんな 絵本があったでしょうか。思い出をたどってみて ください。
- ・スイミー 小さなかしこいさかなのはなし レオ・レオニー作、谷川俊太郎訳
- ・ふたりはともだち アーノルド・ローベル作
- ・おおきなかぶ ロシアの昔話。

の結果とも言えるの この異常な暑さはそ

ではないでしょうか。

さて、絵本の勉強

- ・ずーっとずっとだいすきだよ ハンス・ウィルヘルム作
- 手ぶくろを買いに 新美南吉作
- · おとなになれなかった弟たちに… 米倉斉加年作
- 大造じいさんとがん 椋鳩十作
- ・エルマーのぼうけん ルース・スタイルス・ガネット作
- 三びきのやぎのがらがらどん マーシャ・ブラウン作

に採択された絵本や物語」でした。 りとなりました。テーマは「教科書 入りや子供を加えての楽しい集ま 験者に現職教員二名、読み聞かせ てあらためて思う事など、お互い 触れた作品についての思い出や、大 夫々が小学生であった頃、教科書で 経験二〇年のベテラン,加えて飛び 人になって単行本となった本に接し

がれている絵本のいくつかを用意す ことがあるね、ということで詠み継 も絵が違うと作品の印象が変わる れは平和授業の一環だった」などと 次回は絵本でテキストは同じで

一歳の孫の会話

田島まゆみ

きくならんよ!」と孫 じに「じぃじ、ちゃんと食べないと大 夕食時、まだ席に座ってないじい ある日のこと

もう大きいやん。」 と、孫はじぃじを見上げて「じぃじ、 じいじは急いで席に座ろうとする

みんなで大笑いしました。 夕方、ひいばあばの家に遊びに行

行橋中央公民

8 時半開場

13 時か

10時30分

今元公民館

10 時 30 分

出してたオモチャを片付けて、ひい ばあばやひいじぃじに 五時のチャイムが鳴り始めたので

10月、11月

8時30分

松尾範子教室

松尾範子教室

13 時

13 時

17 時

行橋市今井浄喜寺

17 時

松尾範子教室

松尾範子教室

いるのを発見した孫。 と言ってニコニコ笑顔てタッチ! もタッチして駐車場へ・・・。すると、 匹のムカデが弱って手が丸まって お片付けしたアンパンマンカーに 「バイバイまた来るね!タッチ!」

ひまわりイベント

10日(金)楽しく歌おう

19日(日)絵本の勉強会

24日(金)楽しく歌おう

8日(土)行橋連歌大会

14日(金)楽しく歌おう

16日(日)絵本の勉強会

日(金)楽しく歌おう

15日(土) ひまわりこども連歌

23 日(日) 今井祇園連歌の会月次会

18日(土) ひまわりこども連歌

8日(水)行橋市民講座「連歌」13時30分

今井祇園連歌百韻張行

イバイ!」 孫は立ち止まり「ムカデさん、バ 私は咄嗟に「タッチしたらチック

10月

11月

5

館

ました。 チできんねー」と困った顔をしてい カデさん、手がこうなってるから ンするからダメよ!」と言うと「ム (手が丸まってる真似をして)、タッ

いる姿に改めて感動させられた一 子どもの同じ目線で物事を見て

> するとやさしい気持ちになります ちに寄り添い、子どもの目線で会話 なってるこんな一時。子どもの気持 慌ただしい毎日につい忘れがちに

ある日の夕方、帰宅中の出来事。 まだ西日が眩しくて孫は「まぶし

おまけ

う。こうせいはママが好き!」ママに

んやない?」と言うと「ちがう、ちが

私が「太陽は、こうせいが好きな

は勝てません・・・笑

い!太陽がずっとついてくるけ。」



微に入り、細に入り描き出される 東京を歩く荷風を追いかけている。 川本は断腸亭日常を中心に丹念に 関東大震災以後を昭和ととらえる 東京の昭和、「ああそうなんだ」と した。前後2編からなる大部である。 る「荷風と東京」を新潮社から上梓 長い永井荷風への旅の最終章とな

・川本三郎がその

何度もうなづいた。

いうことだ。 息が出た。読むほうも歳をとったと をよく感じることができる。秋風と ともに終わる物語、 絵も掲載されていて原著の雰囲気 した。岩波文庫版は木村壮八の挿 ▼つられて、「濹東綺譚」を取り出 読み終わって嘆

時でした。

本とその周辺

